

平成 28 年度 事業内部評価

平成 28 年度に浜松市文化振興財団文化事業課にて開催した鑑賞型事業の内、12 公演について内部事業評価を実施しました。評価指標は前年度事業評価方式を継続して採用しております。

① 実施した内部事業評価項目

■ 目標設定

事業開催目的及び狙い、損益分岐点の設定、予算設定、収益目標額、自主財源投入予定額

■ 事業成果と評価

目的及び狙いの達成度、入場者・参加者・実績値、収支状況

■ 結果確認、改善点および今後の方向性

達成度・実績値・収支状況による総合評価、担当者・所属長による状況分析及び改善点

② 評価点基準及び総合判定基準根拠

I 目標達成度

満足度	アンケート結果による顧客満足度(良い・大変良いの集計)の割合。そのまま評価点に表記。
-----	--

II 参加者等

券売率	当初設定された有効販売数に対する販売実績率。100%で完売。
入場率	有効座席数に対する入場者実績率。100%で満席。
達成率	券売目標率に対する券売率の達成率。100%で目標達成。

評価点は下記の表により決定

	点数
満席	100
目標達成率 101%～満席未満	90
目標達成率 100%～91%	80
目標達成率 90%～81%	70
目標達成率 80%～71%	60
目標達成率 70%～61%	50
目標達成率 60%～51%	40
目標達成率 50%～41%	30
目標達成率 40%～31%	20
30%以下	10

Ⅲ 収支状況

収入率	当初予定収入額に対する収入実績率。100%以上で収入増。
支出率	当初予定支出額に対する支出実績率。100%以下で経費削減。
財源投入率	当初予定されていた自主財源投入額に対する投入額実績。 100%以下で当初予定より投入額減少。0%で投入額0円、事業単体で収支は黒字。 また予定されていなかった投入額については実額で表記するとともに説明を加える。

評価点は下記の表により決定

	点数
完売	100
収支プラス～完売未満	90
収支0円～9%減	80
10%減～19%減	70
20%減～29%減	60
30%減～39%減	50
40%減～49%減	40
50%減～59%減	30
60%減～69%減	20
70%減以上	10

※収入には自主財源等を含める

Ⅳ 総合判定 評価総合結果の点数により、下記の通り設定

90点～	AA 卓越した水準
70点～	A 優秀な水準
40点～	B 良好な水準だが一部問題あり
20点～	C 一応の水準だがかなり問題あり
0点～	D 多くの問題あり

③ 事業評価結果一覧

■事業概要					
事業名	浜名梱包クラシックスペシャル アクト・ニューアーティスト・シリーズ 2016				
開催日・場所	平成28年5月15日、7月10日、9月18日、12月18日、平成29年2月12日 全5回 アクトシティ浜松 音楽工房ホール				
基本方針分類	交わる・育てる (クラシックファン層自身により若手アーティストの育成を支援し、文化交流を深める)				
内容・目標	<p>実力があり、今後活躍が期待される若手アーティストを採り上げることで、市民の音楽への関心を高めていくことを目的としている。</p> <p>クラシック初心者でも来場しやすい価格設定や、割り引いたお得な価格のパスポート(5回通し券)を設定することでリピーターを増やすとともに、演奏後のアフター・トークを企画し、演奏家と聴衆の交流を図り、クラシックファンの拡大を狙う。</p> <p>アクトシティオープン以来続けているシリーズであり、通算107回開催。</p>				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)	88.6%	アンケート回収枚数 361枚 回収率 34.0%			89点
II 参加者等	券売率	96.5%	目標入場率を上回っており、いずれの回もほぼ満席。 1回券の販売がパスポートに比べ好調。		90点
	入場率	91.1%			
	達成率	120.6%			
III 収支状況(予算比)	収入率	128.9%	1回券の販売数が伸び収入増。		90点
	支出率	89.2%	全体的に経費を抑えることができた。		
	財源投入率	11.5%	チケット収入増。財源負担は88.5ポイント減		
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定
質的成果	I 目標達成度	89点	30	26.7点	
量的成果	II 参加者等	90点	40	36点	
	III 収支状況	90点	30	27点	
			合計	89.7点	
状況・改善点	<p>入場率が高く安定した人気企画だが、前年度と比較するとやや券売率が下がっている。来場者の満足度は依然高く、アフター・トークでのお客様からの質問が増えている。リピーター離れ阻止や新規来場者獲得に向けて、企画構成の見直しなど、再検証も図る。</p>				

■ 事業概要					
事業名	ワンコインコンサート				
開催日・場所	平成 28 年 6 月 9 日、7 月 28 日、8 月 23 日、11 月 17 日 全 4 回 アクトシティ浜松 中ホール				
基本方針分類	交わる・育てる (市民の音楽文化満足度を高めるとともに、クラシックファン層の裾野を拓げる)				
内容・目標	平日ランチタイムの 1 時間で気軽に聴けるコンサートを実施。国内外で活躍する著名演奏家のトークを交えた親しみやすい公演内容でクラシックファンの拡大を目指す。アクトプラザレストランと企画提携し、アクトシティ活性化も図る。				
■ 事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)	88.7%	アンケート回収枚数 1,283 枚 回収率 43.4%			89 点
II 参加者等	券売率	73.0%	アクトシティ近隣からの来場者も多く、新聞広告・折込みチラシの効果がでているが、券売・入場率とも前年度を下回った。子どもをターゲットとした 7 月公演では親子連れが多数みられた。		80 点
	入場率	73.8%			
	達成率	91.2%			
III 収支状況(予算比)	収入率	90.0%	入場料が目標に達せず 10 ポイント減		80 点
	支出率	103.1%	出演料増により当初予算を 3.1 ポイント超過。		
	財源投入率	110.8%	財源負担率 10.8 ポイント増(285 千円追加投入)。		
■ 評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A
質的成果	I 目標達成度	89 点	30	26.7 点	
量的成果	II 参加者等	80 点	40	32 点	
	III 収支状況	80 点	30	24 点	
			合計	82.7 点	
状況・改善点	前年度と比較するとやや数値がさがっているが、平日昼間の公演としては入場率が高く、特にリピーター率が高い。公演後のアクトシティ内のレストラン利用も増えている。アンケート回収率が高く、来場者の関心が高い。 7 月公演「こどものためのワンコインコンサート」において、子どもが楽しめる曲が少ないとご指摘があり、次回は選曲を演奏者と調整する。				

■ 事業概要						
事業名	佐渡裕指揮 ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団					
開催日・場所	平成 28 年 5 月 25 日 アクトシティ浜松 大ホール					
基本方針分類	交わる・育てる（要望の高い良質な公演を浜松に招へいし、市民の音楽文化満足度を高めクラシックファン層の裾野を広げる。）					
内容・目標	佐渡裕が音楽監督を務める欧州屈指のトーンキュンストラ管弦楽団の日本凱旋公演。ソリストは、浜松国際ピアノアカデミー修了生アリス＝紗良・オット。テレビ会社と共催開催方式をとることで、収支リスクを半減して大型公演を実施。若い世代も関心の高い一流奏者により、音楽人口を広げて次世代に繋げる。					
■ 事業成果と評価					評価点	
I 目標達成度(満足度)	92.2%	アンケート回収枚数 281 枚 回収率 15.7%			92 点	
II 参加者等	券売率	92.6%	テレビ会社との共催メリットを活かし CM 告知を広く行った結果、入場者数はほぼ目標数に達した。ただし、高額席の残券が目立った。		80 点	
	入場率	77.0%				
	達成率	99.5%				
III 収支状況(予算比)	収入率	9.7%	当初予定していた収入額に達せず。(△903 千円)		80 点	
	支出率	61.3%	施設使用料ほか経費を抑制(△387 千円)			
	財源投入率	516 千円	当初財源投入 0%の予定のところ、負担額発生。			
■ 評価総合結果						
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A	
質的成果	I 目標達成度	92 点	30	27.6 点		
量的成果	II 参加者等	80 点	40	32 点		
	III 収支状況	80 点	30	24 点		
			合計	83.6 点		
状況・改善点	テレビ露出による知名度の高い出演者であり、CM スポットの効果も大きく、一定数を集客できたが、チケット単価の安い席に券売が集中し、収入が目標値に達しなかった。単価設定と配席が今後の課題である。 浜松国際ピアノアカデミー修了生を起用し、同事業の顕彰にもつながった。					

■ 事業概要					
事業名	ローマ・イタリア歌劇団「ラ・ボエーム」				
開催日・場所	平成 28 年 6 月 29 日 アクトシティ浜松 大ホール				
基本方針分類	交わる・育てる（世界第一級の名門劇場によるオペラの鑑賞機会を提供し、市民の音楽文化満足度を高める）				
内容・目標	若手の登竜門として有名なイタリア・スポレート劇場を母体としたオペラ公演。ボローニャ歌劇場も参加。児童合唱にはジュニアクワイア浜松が客演。 アクトシティのホール機能を活かす大型オペラ公演を財団が果たす。				
■ 事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)	84.0%	アンケート回収枚数 307 枚 回収率 26.0%			84 点
II 参加者等	券売率	71.2%	来場者層拡大のため、学生席を割引価格で設定。237 席の販売があり、一定の成果を得た。		80 点
	入場率	81.7%			
	達成率	81.0%			
III 収支状況(予算比)	収入率	73.0%	目標の入場料収入を下回る(△27 ポイント)。企業協賛あり。		70 点
	支出率	95.2%	経費を全般的に抑制。(△4.8 ポイント)		
	財源投入率	100.0%	当初予定どおりの財源負担額。		
■ 評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A
質的成果	I 目標達成度	84 点	30	25.2 点	
量的成果	II 参加者等	80 点	40	32 点	
	III 収支状況	70 点	30	21 点	
			合計	78.2 点	
状況・改善点	採算性の低い本格海外オペラ公演は、民間興行が少なく、浜松では財団がほぼ唯一の開催主催者。大都市と比べ安価のチケット単価設定を心がけていることから、浜松ではまだ興行的には難しい。企業協賛等を仰ぐなどの努力を行っているが、引き続き財源投入が必要。チケット売れ行きを伸ばし、最小限の財源投入額とするため、演目、出演者、公演料をよく精査する必要がある。 オペラを鑑賞する年代層は高齢化傾向にあることから、若い世代(学生～働き盛りの世代)をいかに取り込んでいくかが課題。				

■ 事業概要					
事業名	松竹大歌舞伎(昼の部・夜の部) / 歌舞伎プレセミナー(アクトワンコイン講座)				
開催日・場所	平成 28 年 7 月 17 日 アクトシティ浜松 大ホール (歌舞伎プレセミナー: 平成 28 年 5 月 7 日 コンgressセンター)				
基本方針分類	育てる・伝える (市民の文化的満足度の向上、伝統芸能の鑑賞機会を創出し次世代につなげる)				
内容・目標	毎年恒例の人気歌舞伎公演。出演は、市川染五郎、中村壱太郎、市川高麗蔵、嵐橋三郎、中村歌昇ほか。浜松でも歌舞伎を鑑賞できる機会を提供。 来場者層拡大を狙い、公演前に初心者向けセミナーも開催。(アクトワンコイン講座) 固定来場者の需要を満たすとともに、若年層向けチケットを設定し幅広い年齢層の集客を高める。地域の工芸店・和菓子店舗とも提携し、地域活性化を図る。				
■ 事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)	83.4%	アンケート回収枚数 691 枚 回収率 24.1% (2 回公演分)			83 点
II 参加者等	券売率	94.8%	目標を 12 ポイント上回る券売率で昼公演は完売。 夜公演は若干残席あり。プレセミナー券売好調。 アンケートでは、歌舞伎初鑑賞の来場者層の増加がみられた。		90 点
	入場率	93.5%			
	達成率	114.8%			
III 収支状況 (予算比)	収入率	112.3%	券売好調。当初予算比 12.3 ポイント収入増。 施設使用料・委託料を抑制。販促印刷物に充当。 財源負担なし。事業収入で総事業費をまかなった。		90 点
	支出率	91.2%			
	財源投入	0.0%			
■ 評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A
質的成果	I 目標達成度	83 点	30	24.9 点	
量的成果	II 参加者等	90 点	40	36 点	
	III 収支状況	90 点	30	27 点	
			合計	87.9 点	
状況・改善点	<p>入場率・券売率共に、目標以上の数値達成。 「歌舞伎プレセミナー」は、初心者の来場機会増加につながっている。また、既存来場者の評価も高いので、今後も実施検討。 地元工芸・和菓子店との提携や、若年層への販売促進に引き続き力をいれていく。 「夜の部」の入場率が、「昼の部」に比べやや低い。今後も幕見席(「夜の部」限定の割引チケット)等の活用などで、集客を図る。</p>				

■ 事業概要						
事業名	東京バレエ団 子どものためのバレエ「ドン・キホーテの夢」					
開催日・場所	平成 28 年 8 月 1 日 アクトシティ浜松 大ホール					
基本方針分類	育てる（児童の芸術鑑賞機会を創出し、市民の文化的満足度を向上させる）					
内容・目標	家族で楽しめる良質なバレエ鑑賞の機会を提供し、児童の芸術文化への関心を育成する環境を整える。					
■ 事業成果と評価					評価点	
I 目標達成度(満足度)	93.5%	アンケート回収枚数 337 枚 回収率 23.6%			93 点	
II 参加者等	券売率	92.6%	当初目標を 14 ポイント上回る販売率。ターゲットとチケット料金額の設定が一致。販促につながった。 浜松市内・近隣バレエ団に向けた販促広報が成功。近隣都市からの来場も多かった。		90 点	
	入場率	93.8%				
	達成率	114.0%				
III 収支状況 (予算比)	収入率	112.7%	券売好調により当初目標比 12.7 ポイント増		90 点	
	支出率	104.5%	委託費ほか経費が当初比 4.5 ポイント増			
	財源投入	96.3%	券売収入増により、財源負担 3.7 ポイント減			
■ 評価総合結果						
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定	
質的成果	I 目標達成度	93 点	30	27.9 点		
量的成果	II 参加者等	90 点	40	36 点	AA	
	III 収支状況	90 点	30	27 点		
			合計	90.9 点		
状況・改善点	平成 26 年度にも開催した子ども向け演出のバレエ公演。バレエ初心者にもわかりやすい演出・内容で、入門編として効果があった。前回に引き続き市内・近隣バレエ団を中心に販促をかけ、売上の多数を占めた。来場者満足度も非常に高かった。 地元バレエ団に子役客演協力を依頼したところ、かなりのご負担をかけた。次回も子役を地元客演とするかは、浜松洋舞家協議会に事前に相談のうえ、再検討する必要がある。					

■ 事業概要						
事業名	辻井伸行&ヨーロッパ室内管弦楽団「極上のモーツァルト」					
開催日・場所	平成 28 年 10 月 31 日 アクトシティ浜松 大ホール					
基本方針分類	交わる・育てる（海外名門オーケストラと著名音楽家の演奏鑑賞の機会を提供し、市民の音楽文化満足度を高める）					
内容・目標	知名度の高い世界第一級のピアニストとオーケストラの演奏を地元で聴く機会を創出し、クラシックファンの満足度を高めるとともに、音楽鑑賞の裾野を拡げる。					
■ 事業成果と評価					評価点	
I 目標達成度(満足度)	87.2%	アンケート回収枚数 485 枚 回収率 27.3%			87 点	
II 参加者等	券売率	75.5%	チケット販売は当初を上回ったが、高額な席が残ってしまった。 演奏者の知名度を販促につなげることができた。		100 点	
	入場率	76.3%				
	達成率	132.4%				
III 収支状況 (予算比)	収入率	85.8%	収支プラスではあるが、予定値より 14.2 ポイント減		90 点	
	支出率	98.6%	当初予定より若干経費を抑制			
	財源投入率	0.0%	当初どおり財源負担なし。事業収入で総事業費をまかなった。			
■ 評価総合結果						
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定	
質的成果	I 目標達成度	87 点	30	26 点		
量的成果	II 参加者等	100 点	40	40 点	AA	
	III 収支状況	90 点	30	27 点		
			合計	93 点		
状況・改善点	<p>集客が目標値を上回った一方、高額な席の残席が多く、予定の収入額に達しなかった。ただし、興行としては黒字収支。今後は適正な目標値の設定を心掛ける。</p> <p>ここ数年、連続して辻井伸行氏関連の公演を開催しているが、依然、収支が黒字となる公演。収益を他公演の事業財源に回すためにも、今後も開催を続けたい。</p> <p>ただし、今回は辻井氏の演奏がコンチェルト 1 曲だったことから、来場者からは「物足りない」という意見があったことをふまえ、リサイタル公演も検討したい。</p>					

■ 事業概要					
事業名	京都市交響楽団「オーケストラ・ディスカバリー」 こどものためのオーケストラ入門				
開催日・場所	平成 28 年 11 月 12 日 アクトシティ浜松 大ホール				
基本方針分類	育てる (児童の芸術鑑賞機会を創出し、市民の文化的満足度を向上させる)				
内容・目標	小中学生を対象としたオーケストラ入門コンサート。ゲスト芸能人による解説付きで、クラシック音楽の垣根を下げた家族向け公演。児童の芸術文化への関心を育成する環境を整える。				
■ 事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)	90.7%	アンケート回収枚数 430 枚 回収率 30.4%			90 点
II 参加者等	券売率	68.7%	児童の来場が 1/3 を占め、開催目的に適した来場者層となった。アンケート回収率が高く、来場者満足度も概ねよかった。企業協賛来場者により入場率は高いが、券売への販促が足りなかった。		70 点
	入場率	90.0%			
	達成率	85.9%			
III 収支状況 (予算比)	収入率	90.2%	若干残席あり、当初比△9.8 ポイント。企業協賛あり。		90 点
	支出率	91.3%	経費抑制により、△8.7 ポイント。		
	財源投入	92.6%	支出減率が収入減率を上回り、財源負担 7.4 ポイント減。		
■ 評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A
質的成果	I 目標達成度	90 点	30	27 点	
量的成果	II 参加者等	70 点	40	28 点	
	III 収支状況	90 点	30	27 点	
			合計	82 点	
状況・改善点	低学年児童には難しい解説があったが、なじみ深い選曲により概ね好評をいただいた。次回開催の場合は、もう少し低年齢層を意識したトークを企画側に相談する。企業協賛金が収入の約 30%を占めた。今後も企業協賛を募る努力を続けるとともに、協賛がとれない場合の対策検討が必要。				

■ 事業概要					
事業名		ビッグボス原信夫 卒寿フェスティバル			
開催日・場所		平成 28 年 11 月 19 日 アクトシティ浜松 大ホール			
基本方針分類		交わる・育てる（要望の高い良質な公演を浜松に招へいし、市民の音楽文化満足度を高めジャズファン層の裾野を広げる。）			
内容・目標		浜松オリジナルの企画構成。浜松市音楽文化名誉顧問であり、浜松ジャズ・クリニックの講師を長年務めた原信夫氏が卒寿を記念した一夜限りのシャープス&フラッツ復活コンサートを開催。 日本最高峰のビッグバンドによる一流のジャズを市民に披露し、若い世代にも本格ジャズを知ってもらおう。			
■ 事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)		83.8%	アンケート回収枚数 277 枚 回収率 18.3%		84 点
II 参加者等	券売率	41.7%	テレビ会社との共催メリットを活かし CM 告知を広く行った結果、入場者数はほぼ目標数に達した。ただし、高額席の残券が目立った。		80 点
	入場率	65.8%			
	達成率	55.8%			
III 収支状況(予算比)	収入率	55.6%	見込収入額に達せず(当初比△44.4ポイント減)		40 点
	支出率	110.0%	広報宣伝費、委託料等で予算超過(△871千円)		
	財源投入率	4,652千円	当初財源投入 0%の予定のところ、負担額発生。		
■ 評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 B
質的成果	I 目標達成度	84 点	30	25.2 点	
量的成果	II 参加者等	80 点	40	32 点	
	III 収支状況	40 点	30	12 点	
		合計		69.2 点	
状況・改善点		出演者、来場者ともに満足度の高いコンサートであったが、券売が予定を下回った。原信夫氏のトークショーとシャープス&フラッツの復活ライブという両翼を広報していたが、ターゲット層であるジャズ愛好家たちに適切に企画の魅力を宣伝できなかったことが要因。次回以降の同じような企画では、なるべく早くから情報の伝達を開始し、広く知ってもらおうことが肝要と思われる。			

■ 事業概要					
事業名	ハリウッド・フェスティバル・オーケストラ ニューイヤーコンサート				
開催日・場所	平成 29 年 1 月 15 日 アクトシティ浜松 大ホール				
基本方針分類	育てる (市民の音楽文化満足度を高めるとともに、クラシックファン層の裾野を拓げる)				
内容・目標	特別ゲストに綾戸智恵を迎え、名作映画音楽を一部スクリーンを使用しながら、目と耳で鑑賞するオーケストラコンサート。映画ファンを中心に、オーケストラへの興味を引き出す。				
■ 事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)	87.9%	アンケート回収枚数 331 枚 回収率 30.9%			88 点
II 参加者等	券売率	67.0%	ターゲット(映画ファン・高齢の方)とおりの来場層だったが、入場者数が低かった。広報宣伝に映像(TVスポット)などをもっと活用すべきだった。アンケート回収率・来場者満足度は高く、広報を改善できればリピーターが期待できる公演。		70 点
	入場率	69.2%			
	達成率	82.9%			
III 収支状況(予算比)	収入率	79.4%	入場料が目標に達せず 20.6 ポイント減		50 点
	支出率	104.6%	使用賃借料(著作権料)等が当初予算を 4.6 ポイント超過。		
	財源投入率	330.7%	財源負担当初比 2,120 千円増		
■ 評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 B
質的成果	I 目標達成度	88 点	30	26.4 点	
量的成果	II 参加者等	70 点	40	28 点	
	III 収支状況	50 点	30	15 点	
			合計	69.4 点	
状況・改善点	映画音楽をテーマにした公演は近年浜松で開催していなかったこと、他地域では人気の高い公演であったことから企画したが、集客に伸び悩んだ。新聞広告中心の広報を展開したが、映画ファンを意識してテレビCMスポットを活用すべきだったかもしれない。来場者の満足度は他公演に比べ高かったため、改善検討したい。				

■ 事業概要					
事業名	ミュージカル「天使にラブ・ソングを」 ～シスター・アクト～				
開催日・場所	平成 29 年 2 月 3 日、4 日(2回公演) アクトシティ浜松 大ホール				
基本方針分類	育てる (大型のミュージカル公演を浜松でも開催し、市民の音楽文化満足度を高め若い世代を含む広い年代層への関心を募る)				
内容・目標	森公美子、大澄賢也ら知名度の高い出演者と、なじみ深いタイトルの本格ミュージカルの浜松公演。初めてミュージカルを鑑賞する方、若い世代にもアピールする企画で舞台鑑賞の機会を拡げる。 テレビ会社と共催開催方式をとることで、収支リスクを半減して大型公演を実施。				
■ 事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)	89.5%	アンケート回収枚数 675 枚 回収率 24.9%			90 点
II 参加者等	券売率	108.1%	本格ミュージカルの浜松開催を評価するアンケートの声が多かった。テレビ会社との共催メリットを活かし CM 告知を広く行った結果、完売。		90 点
	入場率	99.3%			
	達成率	108.4%			
III 収支状況(予算比)	収入率	53.2%	チケット収入以外の収入が見込みに達しなかった。46.8p減		60 点
	支出率	75.2%	予定経費を下回った。当初比 24.8 ポイント減		
	財源投入率	1,020千円	当初財源投入 0%の予定のところ、負担額発生。		
■ 評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 A
質的成果	I 目標達成度	90 点	30	27 点	
量的成果	II 参加者等	90 点	40	36 点	
	III 収支状況	60 点	30	18 点	
			合計	81 点	
状況・改善点	テレビ会社との共催を活かし、TV告知による広報を展開。完売に結びついた。チケット以外の収入の見込みが甘く、予定経費を抑えたものの、財源負担が発生してしまった。予算の綿密な設定を心がける。				

■事業概要					
事業名	これは知らなかった！能・狂言のとおきの楽しみ方（アクトワンコイン講座）				
開催日・場所	平成 29 年 3 月 6 日 アクトシティ浜松 大ホール				
基本方針分類	育てる・伝える （なじみの少ない伝統芸能をわかりやすく披露し、身近に感じていただくとともに、その魅力を次世代に伝える）				
内容・目標	実際の上演も交えて「能・狂言」をわかりやすく紹介することで、伝統芸能の敷居を下げる入門講座公演。翌年度の「能・狂言」本公演にもつなげる。 アクトワンコイン講座に加えることで、別ジャンルとシリーズ化し、新しい鑑賞者層を取り込む。				
■事業成果と評価					評価点
I 目標達成度(満足度)	80.1%	アンケート回収枚数 317 枚 回収率 42.8%			80 点
II 参加者等	券売率	38.1%	高齢者だけでなく、40～50 代の年齢層の来場者もみられたが、週末のホールが予約できず平日昼間の公演となってしまう、学生の入場がなかった。次回は学校の長期休暇期などの開催を目指す。入場料を安価にするため高い券売数目標(1260 席)を設定したが届かなかった。		40 点
	入場率	47.0%			
	達成率	58.8%			
III 収支状況(予算比)	収入率	46.5%	入場料が目標に達せず 53.5 ポイント減		90 点
	支出率	89.2%	委託料等が当初予算を下回る。10.8 ポイント減		
	財源投入率	96.8%	財源負担当初比 3.2 ポイント減(112 千円)		
■評価総合結果					
		①評価点	②ウエイト	①×②	総合判定 B
質的成果	I 目標達成度	80 点	30	24 点	
	II 参加者等	40 点	40	16 点	
量的成果	III 収支状況	90 点	30	27 点	
			合計	67 点	
状況・改善点	<p>初心者でもわかりやすく飽きさせない工夫により来場者の反応は良かった。アンケート回収率も高かった。</p> <p>気軽に聴講できる低価格設定を試みたが、その分ペイライン券売数が高くなり、目標収入に達しなかった。伝統芸能の継承・教育普及目的のある事業なので、採算性をどうとらえるかが今後の課題。</p>				

平成 29 年 6 月 30 日

公益財団法人浜松市文化振興財団 文化事業課

〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町 111-1

TEL053-451-1114 FAX053-451-1123

http://www.hcf.or.jp e-mail: event@hcf.or.jp